

できる時に、できる方が、できることを！

腕章でつなく、心と心のネットワーク

家庭や地域を巻き込む「新町サポーター」の取組

高崎市立新町第一小学校 小島 明

はじめに

現在の社会状況は、多様化・複雑化している。その上、学校や子どもをめぐる事件や事故等が頻発し、安全・安心な学校づくり、そして地域づくりが最重要課題となっている。学校と家庭や地域が一体となり、総合的な教育力を発揮することが問われていると言える。

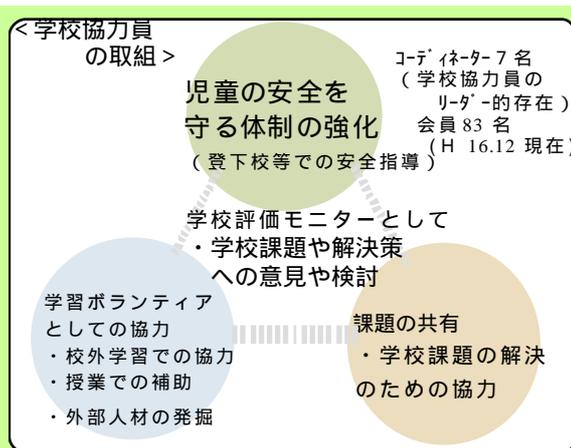
前任校（新町第二小学校）で、学校への支援者との関係性を再構築できるような学校評価の「ACTION」を改善し、学校と外部との接点の課題の共有を拠点に、それを取り巻く周辺部を巻き込んでいき、特に家庭との課題の共有を図ることができた（第2回21世紀ぐんま教育賞で公表）。その中心となったのが保護者によるボランティア組織の「学校協力員」であった。学校協力員の取組は、様々な方面から評価をいただき、藤岡行政事務所からの支援を皮切りに、この取組を地域に広げたいという思いが高まった。

そこで、今年度の人事異動で本校に赴任したこともあり、地域連携担当として学校協力員の取組を地域全体に広げようという構想を描き、家庭や地域を巻き込む「新町サポーター」を結成することができた。その結成から発展していくまでの実践を紹介するとともに、今後の展望を見定め、腕章でつなく心と心のネットワークの構築が安全・安心な学校・地域づくりにつながっていくことを提言したい。

「新町サポーター」結成の経緯

1 前身としての「学校協力員」(資料1)

3年前の平成15年4月、新町第二小学校の校区に相次ぐ不審者の出没があった。職員で1ヶ月間毎日のように下校指導パトロールを行った。毎日続けることの限界を感じていたところ、ある保護者が「親として、私たちにできることはないですか。」という一言から、保護者によるボランティア組織である「学校協力員」が発足した。当初は数名で100個の手作り腕章を作成し、会員を増やしながら毎日の登下校時の児童の安全を守る活動を中心に取り組んだ。その後、会員100名を超え、日常の子どもの安全を守る活動の他に、図書室の管理やあいさつ運動など学校に協力できる様々な活動を行っていった。



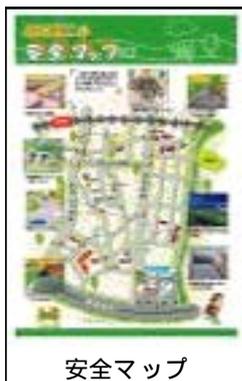
資料1 「学校協力員」の取組
(第2回21世紀教育賞で公表：小島)

2 「学校協力員」から「新町サポーター」へ

これらの「学校協力員」の活動が「地域防犯活動支援事業」の支援の対象となり、県藤岡行政事務所からモデルケースとして支援を



学校協力員の手作り腕章



安全マップ

受けることになった。平成16年11月から「地域安全マップ」作成に向けてワークショップが始まり、学校協力員だけでなく、地域の方も数名参加するようになっていった。その取組の中で、「学校協力員の活動を地域全体に広げたい。」という思いがふくらんでいった。

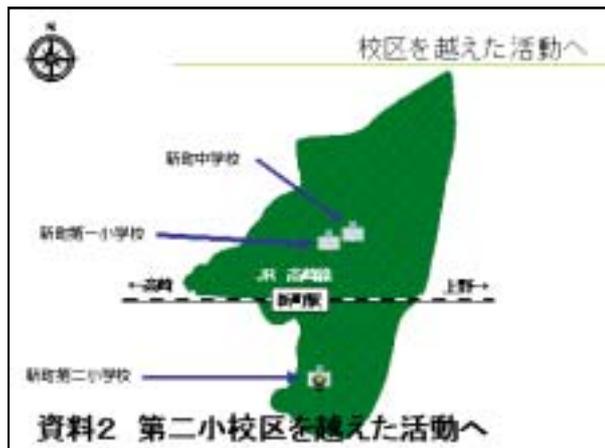
第二小学校卒業した子どもたちは、第二小学校の卒業生が継続して地域のために活動できる腕章を用意しておこうということになり、腕章60枚を支援していただけることになった。話は進み「新町サポーター」と命名し準備活動を開始した(資料3)。平成17年4月、私は同じ町内の新町第一小学校に校長と共に異動した。私は地域連携担当として校長の助言を受けながら、サポーターの組織づくりに取り組むことにした。中学校進学のために学校協力員を巣立っていった会員5名の方が継続して新町サポーターとして活動していただけることになった。4月下旬頃に不審者が出没し、5名のサポーターは自主的にパトロールしていただいた。この5名の会員を中心とし、地域を巻き込む方向性でスタートし、地域からボランティアリーダーとなれる人に賛同を得ながら新町サポーターの組織を整えていった。

3 「新町サポーター」の母体組織

「学校協力員」が育ってきた手法を生かし、地域に拡大できるような見通しを考えた。その手法とは、次の3つである。

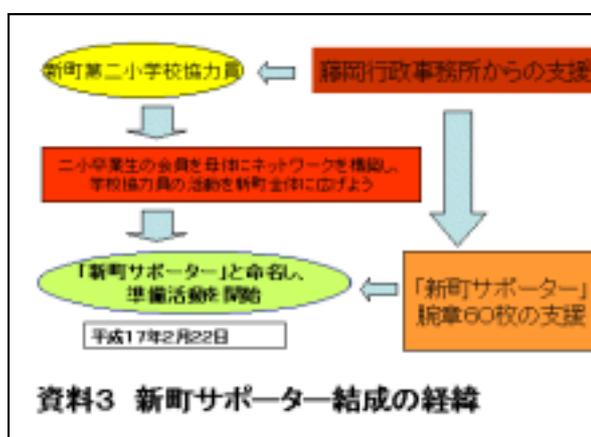
「新町サポーター」はこの下請けでもなく、「自立」した組織として育っていき、その上で学校や行政等と連携を図る。

地域に中心となる人、いわゆる「ボランティアリー

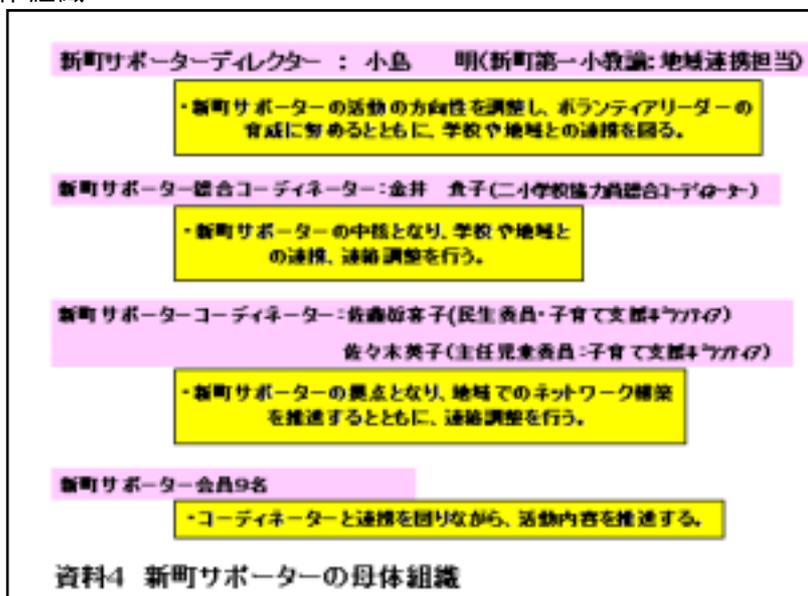


資料2 第二小校区を越えた活動へ

資料2のように、踏切を越えて中学校に進学



資料3 新町サポーター結成の経緯



資料4 新町サポーターの母体組織

ダー」を位置づけ、内側の渦から外側の渦へと巻き込む。

日常的に安全面が守られる取組ができるようにするとともに、学校の課題解決に協力できるような体制をつくる。

学校協力員総合コーディネーターと地域に方でワークショップに参加していただいていた2名の方にボランティアリーダーとなっただき、5月にはようやく9名による母体組織が整った(資料4)。最初の話し合いで、組織の再編、活動における申し合わせ事項の検討、ネットワークの構築方法などについて検討した。申し合わせ事項は次の通りであるが、今日(12月現在)に至るまで3回の見直しを行った。

「新町サポーター」申し合わせ事項

1 活動方針

学校区にとらわれず、新町の子どもの安全を守る活動を中心に行うとともに、学校の課題解決のために協力できる取組を行う。
ネットワークを広げ、新町全体のサポート体制を構築する。
できる時に、できる方が、できることを行う。

2 活動内容

子どもの安全を守るために、パトロールをしたり必要に応じて安全指導を行ったりする。
(自宅周辺のパトロールだけでもよい)
可能な時、無理のない程度において、朝、夕方(登下校時)を中心に、「新町サポーター」の腕章をつけてパトロールを行う。
学校から不審者出没や緊急事態等が発生した連絡があった時、腕章をつけてパトロールを行う。
学校の教育活動を推進する上で、協力が必要になった時、できる範囲で支援を行う。
学校課題を解決する上で、地域の方の力が必要な時。
校外学習等の授業などで、協力する必要がある時。
その他

3 活動組織

当面は、次のような組織を母体としてスタートする。

| | |
|----------------------|-----------------------------|
| 新町サポーターディレクター..... | 小島 明 (新町第一小教諭：地域連携担当) |
| 新町サポーター総合コーディネーター... | 金井 貴子 (新町二小学校協力員総合コーディネーター) |
| 新町サポーターコーディネーター..... | 佐藤真喜子 (民生委員・子育て支援ボランティア) |
| 新町サポーターコーディネーター..... | 佐々木英子 (主任児童委員・子育て支援ボランティア) |
| 新町サポーター会員..... | 発足時は上記の者を含めて9名。 |

新町サポーターディレクター 新町サポーターの活動の方向性を調整し、ボランティアリーダーの育成に努めるとともに、学校や地域との連携を図る。
新町サポーター総合コーディネーター 新町サポーターの中核となり、学校や地域との連携、連絡調整を行う。
新町サポーターコーディネーター 新町サポーターの拠点となり、地域でのネットワーク構築を推進するとともに、連絡調整を行う。
新町サポーター会員 コーディネーターと連携を図りながら、活動内容を推進する。

4 活動上の留意点

会員を増やししながらネットワークを構築し、子どもの安全を守る活動を中心にできることから実施していく。
各ボランティア団体に賛同を働きかけ、会員を増やしていく。
コーディネーターから各ボランティア団体の連絡担当者へ連絡が行き、連絡担当者から会員に連絡が伝わるような体制をつくる。
連絡の迅速・スピードを図るために、複数のボランティア団体に所属している会員は、二重登録を避け、連絡体制をすっきりさせる。
腕章の取り扱いについて注意する。会員の腕章は、誰のものか分かるようにナンバーリングする。
腕章は、当初200枚は県から支援を受けたものを活用し、その後は手作りの腕章を活用する。腕章201からは蛍光が入っていないため、暗くなってからのパトロールは注意する。
会員で保険に入っていない方は、社会福祉協議会でボランティア保険に加入していただけるようお願いする。

付則 以上の申し合わせ事項は、平成17年2月22日から施行する。

平成17年 5月20日 改訂
平成17年 6月15日 改訂
平成17年12月20日 改訂

「新町サポーター」の概要

1 「新町サポーター」の活動方針と内容

(1) 活動方針（資料5）

学校区にとらわれず、新町の子どもの安全を守る活動を中心に行とともに、学校の課題解決のために協力できる取組を行う。

ネットワークを広げ、新町全体のサポート体制を構築していく。

「できる時に、できる方が、できることを」行う。

(2) 活動内容（資料6）

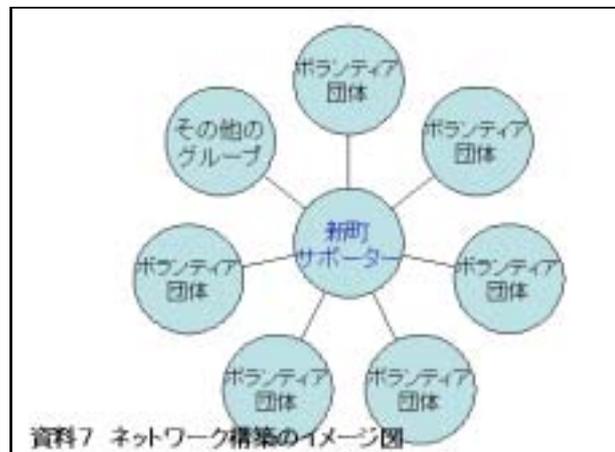
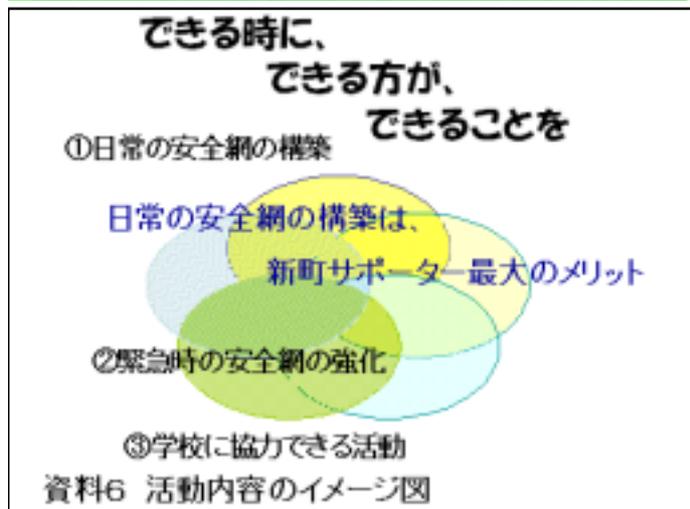
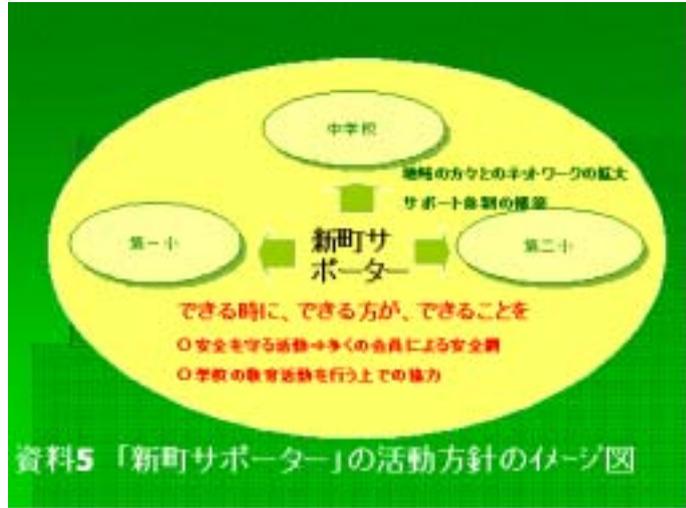
新町サポーターは、「できる時に、できる方が、できることを」をモットーとしている。

最も中心的な日常活動は、安全網の構築である。散歩等において腕章をつけ、朝や夕方の登下校の時間を中心に自宅周辺をパトロールしていただくことにより、地域全体の安全網が構築できると考える。授業日はもちろん、休業日にも願います。不審者情報等があった場合、腕章を付けたパトロールを意識的に行い、範囲を広げるなどして安全網を強化する。このように、日常の安全網の構築は、新町サポーターの最大のメリットと考える。

また、学校の教育活動を行う上でのできるだけの協力をしていく。学校の教育活動で協力が必要になった時に、できる範囲で支援を行う。課題を解決する上で地域の方の力が必要になった時や、校外学習等で協力する必要があった時など、様々なことにできる範囲で協力していく。

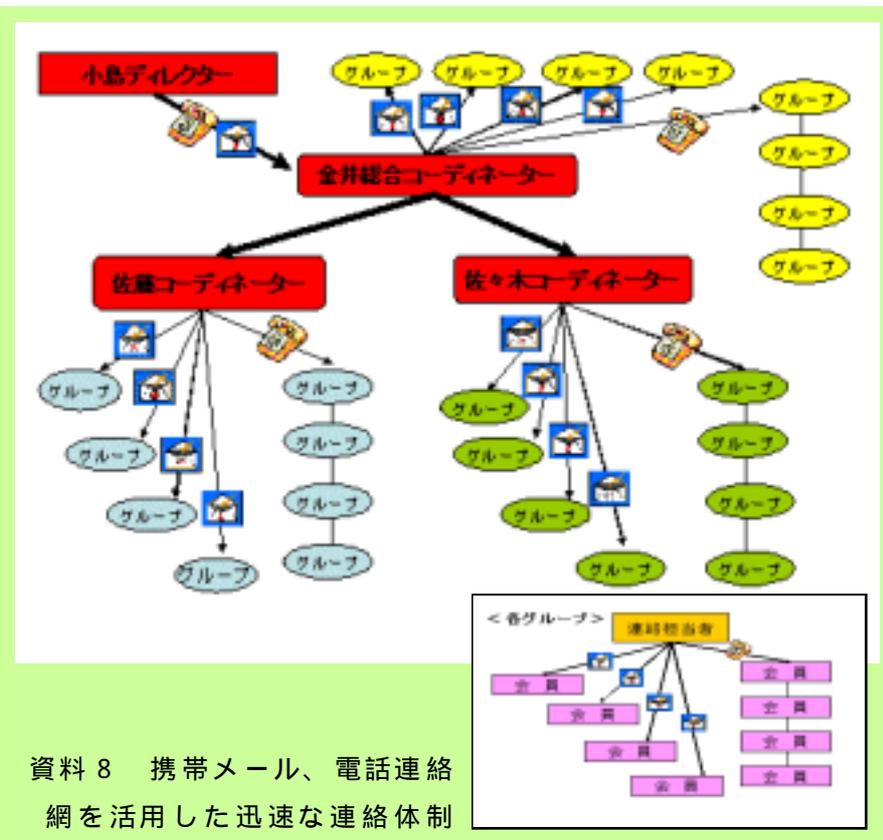
2 ネットワークの構築

新町はボランティア組織がしっかりとしているので、活発に活動しているという特徴を生かして、各種ボランティア団体に働きかけ、賛同者に会員になっていただきながらネットワークを構築していく（資料7）。また、ボランティア団体以外から賛同者を得られた場合、一つのグループを作ってくださいか、いずれかの団体グループに加入していただくことにした。



3 迅速・スピードをモットーとした連絡体制（資料8）

会員への連絡体制は、迅速・スピードをモットーとしている。複数のボランティア団体に所属している会員は二重登録を避け、連絡体制をすっきりさせる。各団体に連絡体制（連絡網）を整え、できるだけ携帯メールの斉送信を使うようお願いしている。ディレクターから総合コーディネーターに連絡すると、担当コーディネーターから携帯メール連絡網と電話連絡網を使って各団体の連絡担当者に連絡が回り、連絡担当者は自分の団体の会員に流す。連絡担当者も携帯メール連絡網や電話連絡網を使い、できるだけ迅速に連絡が回るようにしている。このように携帯メール連絡体制をできるだけ活用し、約300名の会員に迅速に連絡をすることができる。



「新町サポーター」の活動事例

1 新町サポーターのお披露目・贈呈式

平成 17 年 7 月 10 日には、「新町学ぶ会」が主催で、新町公民館に於いて学校協力員の実践発表や新町サポーターのお披露目、そして藤岡行政事務所から、スタート時の腕章 60 枚に加え、140 枚の腕章を贈呈していただいた。そして、各ボランティア団体に腕章を贈呈した。教育長や各学校の校長、行政担当者や各ボランティア団体の方々など、多数の参加があった。

2 会員の増加と手作り腕章

12 月現在、発足から半年で新町サポーター会員は 312 名となった。発足時には 9 名であった会員は、7 月下旬には 200 名を超えるほどになっていた。町行政が



「新町サポーター」の活動と 会員の募集について



新町サポーターは、学区にとらわれず、新町の子どもたちの安全を守るために子どもたちの登下校の時間帯を中心に腕章をつけてパトロールを行ったり、学校の子どものために協力できる取り組みを行う活動です。現在、約200名の会員の方が「できる時に、できる方が、できることを」をモットーに活動を行い、次第にネットワークが広がり、新町全体のサポート体制が整ってきました。ご賛同いただける方は、下記のコーディネーター等に連絡してください。

新町サポーターディレクター
 ...小島 明 (新町第一小教諭：地域連携担当)
 新町サポーター総合コーディネーター
 ...金井 貴子 (新町二小学校協力員 総合コーディネーター)
 新町サポーターコーディネーター
 ...佐藤真喜子 (民生委員・子育て支援ボランティア)
 新町サポーターコーディネーター
 ...佐々木英子 (主任児童委員・子育て支援ボランティア)

「広報しんまち」8月号の記事

毎月1回発行している「広報しんまち」に「新町サポーターの活動と会員の募集について」の記事を載せていただけることになり、会員はますます増加し、贈呈された腕章200枚では不足することになった。腕章を購入する予算はないので、「手作り腕章」を作成することにした。材料費等については、賛同してくれたボランティア団体からの寄付金で賄うことができた。また、新町を明るくする新町サポーターの活動に役立てて欲しいという趣旨で、新町社会福祉協議会から、「社会を明るくする運動」の募金の一部

を寄付していただくことになった。その募金は各家庭からの封筒募金である。今後、「手作り腕章」を継続して作成していく時の材料費に使わせていただくことにした。

「手作り腕章」は学校協力員が発足して最初に取り組んだ作業である。その時の手法を活用し、7月下旬から8月上旬の3日間、新町第一小学校の裁縫室で腕章作成の作業に取りかかった。暑い中、延べ10名程度の会員が協力してくれた。文字のプリントだけは業者に依頼し、他はすべて手作業となる。まず、黄色の生地と接着芯を



カットする。次に、生地と接着芯をアイロンで付着させる。更に、端を折り返してアイロンで押さえる。綿テープを挟みこみ4辺をミシンがけする。マジックテープを縫い付け、最後に安全ピンをつけて、ナンバリングをして完成する。合計101枚の手作り腕章を作成することができた。

腕章は、藤岡行政事務所から寄贈されたものも含めてナンバリングしており、番号と会員が明確になるように管理し、紛失などによる悪用などが起きないように配慮している。

発足から半年を経過した12月中旬には、会員が300人を越え、再び腕章が不足した。そこで、平成18年1月10日に新町第一小学校の裁縫室で再び作成することにした。

3 パトロールの実施

新町サポーターの活動の中心は、子どもたちの安全を守る日常のパトロールである。「でき

「手作り腕章」の作成



生地のカット



生地と接着心の付着



4辺をミシンがけ



マジックテープの縫い付け



安全ピンとナンバリング

る時に、できる方が、できることを」をモットーとし、無理なく行うことが続けていく上で大切なことである。朝や夕方のウォーキングや、買い物、下校時に自宅周辺を散歩、出勤の行き帰りなど、自分でできることを、できる時に腕章を付けて歩いていただいている。腕章を付けていると、たとえ会員同士が初対面であっても話しかけることができ、コミュニケーションが生まれ、そこからつながりができたという報告が多々聞かれる。また、パトロール中に腕章を見た子どもが、元気に挨拶してくれたり、話しかけてくれるようになっている。



日常のパトロール

平成 17 年 8 月 14 ~ 16 日に行われた新町祭りとは花火大会では、事前に「お祭りとは花火大会に、サポーターの腕章を付けて参加して下さい。」というお願いを連絡網で回した。この時初めて連絡網を活用したが、スムーズに連絡が行き渡った。当日は多数のサポーターが会場に腕章を付けていただけた。腕章を付けていると、「ご苦労様」と声をかけてもらえるようになった。



お祭りや花火大会、運動会や陸上大会でのパトロール

秋には小学校で運動会、中学校で校内陸上競技会が開催される。各学校では大きなイベントとなるので、子どもたちが安全に守られた校庭で、存分に力を発揮できるように、新町サポーターに協力していただくことにした。具体的には、腕章を付けて子どもたちの活動に声援を送りながら、校庭を巡視していただいた。今回の連絡は、町の回覧に掲載させていただいた。

4 県の関係機関との連携・啓発活動

学校協力員や新町サポーターの活動が県の関係機関から注目され始め、依頼を受けて積極的に事例発表や啓発活動を行った。

(1) 「平成17年度PTA指導者研修会」(平成17年7月24日)

場 所：生涯学習センター
主 催：群馬県教育委員会
実施機関：中部教育事務所

学校協力員から新町サポーターに発展した経緯や活動内容を紹介した。子ども危険回避



研究所所長の横矢真理先生は講演の中で、新町サポーターへ発展した取組が「楽しみながらできる活動」と評価してくださり、私にたちの活動にエールを送っていただいた。

(2) ラジオ高崎の「新町紹介」(平成17年10月3日)

場所：ラジオ高崎
時間：10:30 ~ 10:35

ラジオ高崎の「新町紹介」のコーナーに出演依頼があり、総合コーディネーターが新町サポーターの取組を紹介した。

紹介した。



(3) 「多野藤岡地域安全大会」(平成17年10月16日)

場所：ららん藤岡
主催：防犯協会多野藤岡支部・藤岡警察署

道の駅「ららん藤岡」で行われた「多野藤岡地域

安全大会」で、新町サポーターの活動をコーディネーターが紹介した。

(4) 「自主防犯パトロール・リーダー研修会」(平成 17 年 10 月 23 日)

場所：前橋総合福祉会館 3 階第一会議室
主催：群馬県総務局地域創造課

防犯の各団体のリーダー
研修会の中で事例発表させ

ていただき、参加者の方々の意見や感想を伺うことができた。



(5) 「藤岡警察署協議会・第2回定例会議」(平成 17 年 11 月 17 日)

場所：藤岡警察署会議室
主催：藤岡警察署協議会・藤岡警察署

事例発表を行い、ディス
カッションに参加した。



5 「子どもの安全を守る活動」の強化

(1) 日常のパトロールの強化と関係機関との行動連携

広島や栃木県の小1 女児殺害事件を受け、学校でも集団下校をしたり職員のパトロール

平成 17 年 12 月 8 日
新町サポーター会員 様

新町サポーターディレクター 小島 明
々 総合コーディネーター 金井貴子

寒さがますます厳しくなってきましたが、サポーターの皆様にはますますご健勝のことと拝察いたします。また、新町サポーターにご賛同とご理解をいただき、日常のパトロール等、子どもの安全を守る活動を中心に行っていたただけることに感謝申し上げます。

さて、最近、子どもをめぐる事件が相次ぎ、地域で子どもの安全を守る体制づくりが全国的に求められています。新聞等の情報によりますと、当番制などの仕組みで防犯の取組を行っている地域は、次第に活動が小さくなっており、なかなか長続きしないという課題が浮き彫りにされています。私たちの新町サポーターは、自らの意志で行うボランティア組織です。「できる時に、できることを、できる方が」をモットーとした活動の利点を最大限に生かし、新町の安全を守る体制を強化できればと思っています。相次ぐ事件により、学校も危機感を抱いております。どうかご協力のほどよろしく申し上げます。

つきましては、次の「新町三校の児童生徒の下校開始時刻」を目安に、都合のつく限り腕章をつけてパトロールをしていただきたくお願い申し上げます。

新町三校の児童生徒の下校開始時刻 (略)

< 第 1 小学校 >

| 曜 | 下校学年 | 下校開始時刻 |
|---|------|--------|
| | | |

< 第 2 小学校 >

| 曜 | 下校学年 | 下校開始時刻 |
|---|------|--------|
| | | |

< 中学校 >

| 曜 | 下校学年 | 下校開始時刻 |
|---|------|--------|
| | | |

を実施しているが、学校と新町サポーターが連携を密にして「子どもの安全を守る活動」を強化していくことにした。具体的には、日常のパトロールの強化を図った。新町三校の児童生徒の下校開始時刻をサポーター会員に資料 9 の通知を配布して知らせ、その下校開始時刻を目安に意識的にパトロールをしていただくようにした。子どもの下校開始時刻を知らせたところ、サポーターからは時間の目安ができて、たくさん子どもに会えるようになってよかったなどの声が寄せられた。実際、腕章を付けてパトロールしている会員が多く見られるようになり、下校時刻に合わせて何度も行ってきている会員もいた。また、町行政とも連携を図り、毎日のように防災無線で防犯を呼びかけてもらえるようになった。藤岡警察署からの協力も得られ、パトロールカーも何度も巡回してくれ、サポーターから「心強い」という声が聞かれるようになった。次第に町全体で子どもの安全を守ろうとする雰囲気が高まり、300 名ほどのサポーターが互いに「できる時に、できる方が、できることを」を合い言葉につながりを強め、学校とサポーター、そして行政や警察との横の連携が図れ、まさに行動連携がとれるようになってきたと考える。

(2) 三校同時開催の「あいさつ運動」への協力

群馬県教育委員会は、県民総ぐるみ運動として「あいさつ運動」を展開している。この運動は、日常的なあいさつを子どもと大人も含めたみんなで行い、地域社会の結びつきを強め、子どもたちが健やかに育つ明るく安全な地域社会づくりを進めることを目的としている。新町の三校は、今までそれぞれの学校で「あいさつ運動」を実施していたが、安全な地域づくりという視点において、三校同時に「あいさつ運動」を展開するのが実効ある取組になると考えた。

平成 18 年 1 月 10 日（火）～ 20 日（金）まで、新町三校で「あいさつ運動」を行うことになった。新町サポーターでも、子どもたちの「あいさつ運動」に参加し、地域ぐるみで「あいさつ運動」を展開していこうと協力体制をとることにした。サポーターがこの運動に協力する方法として、次の 2 点をお願いすることにした。

第一小、第二小、中学校のいずれかの学校に来てもらい、腕章をつけて一緒に「あいさつ運動」を行う。

腕章をつけ、自宅周辺や子どもがよく通る登下校の道に行き、登校する子どもたちに意識的に「あいさつ」をする。この場合、実施期間に一度は近くの学校に立ち寄り、子どもたちと一緒に「あいさつ運動」を行う。

6 「新町サポーターの集い」の開催

新町サポーターが立ち上がってから半年以上が経過し、会員も 308 名になったが、なかなか会員同士が顔を合わせたり、情報交換する機会がもてないでいた。多くの会員からも「会合のようなものがしたい」などの声が高まってきた。また、子どもの安全を守る活動をより充実させるためにも、活動の方向性を確認したり、情報交換や意見交換をしたりすることが必要になってきた。そこで、平成 17 年 12 月 25 日に「新町サポーターの集い」を開催することにした。参加者は開催当日の時間ぎりぎりまで増え、93 名の参加となった。高崎と藤岡行政事務所長、藤岡警察署長など 8 名の関係者にも参加していただいた。

主催者の代表の挨拶として、新町サポーター発足の経緯、「腕章がつくる、心と心のネットワーク」「できる時に、できる方が、できることを」をキーワードとする新町サポーターの信条や今後の見通しなどを話した。新町長からは地域づくりという視点から、新町

第一小の校長は学校という視点から新町サポーターの存在意義を話していただいた。総合コーディネーターから防災無線など数々の支援をいただいた御礼や日常パトロールしている時の状況などを話していただいた。また、会員 308 名は全員、一括して保険に加入する手続きをとることを報告していただいた。高崎行政事務所長からは、合併後の新町サポーターへの支援について、藤岡行政事務所長からは、学校協力員のワークショップからの支援と今後の協力についての話があり、今後も新町サポーターは関係機関と連携を図り、発展していける見通しがもてた。藤岡警察署長からは、何かあったら必ず 110 番をすることの重要性、今後も藤岡警察署と連携を図っていける展望が拓けた。また、新町サポーターの情報発信の確立、新町全域の安全マップづくりなど、建設的な意見が交わされた。



おわりに

新町サポーターは、3年前に結成された新町第二小学校の保護者のボランティア組織である学校協力員が母体である。続発する不審者の対応で、まず学校が真剣に取り組む姿勢を見て保護者が立ち上がった。保護者が子どものために頑張っている姿を見て、地域の方が立ち上がり、やがて地域ぐるみで取り組もうという自然な形で発展するように働きかけてきた。個人の意志による賛同を基本としてサポーター会員になり、できる時に、できる方が、できることを取り組んでいく。総合的には大きな力となるのである。決して割り当てや当番などの強制的なものはない。

腕章を付けていると、そこからコミュニケーションが始まり、人とのつながりをつくり、そのネットワークは広がり続ける。最初は既存のボランティア団体へ働きかけて賛同を得られた方に会員になってもらった。今では会員がさらにつながりをつくり、グループをつくっての加入が多くなった。現在、会員は 312 名。人と人の心のつながりは、まだまだ会員を増やしていくに違いない。そして、地域に多くの大人が腕章を付け、お互いに顔見知りになり、大人と大人、大人と子どもとの絆を強め、安全・安心な学校・地域へ、そして地域住民が互いに高め合っていけるような地域づくりに、「新町サポーター」が推進力として機能していけるように今後も発展させていきたいと思っている。

<主な参考文献>

- ・文部科学省 『学校の安全管理に関する取組事例集』 日本スポーツ振興センター(2003)
- ・木岡一明編集 『学校組織マネジメント研修』 教育開発研究所(2004)